

十二湖での森林教室

令和8年6月17日、白神山地の麓にある深浦町の十二湖(通称：青池)にて、森林教室が行われました。参加した児童は、深浦小学校の4年生15人と、いわさき小学校の3～4年生の11人。深浦町と、東北森林管理局の津軽森林管理署と津軽白神生態系保全センターが協力して児童を迎えました。



静かに聞いている子供たち

当日は天気恵まれ、雲一つない青空の下、森の物産館キョロロの駐車場で開会式が行われました。津軽森林管理署長の挨拶、白神生態系保全センター職員による安全のための注意の後、グループごとに分かれて体験に取り組みます。

用意されたプログラムは2つ。紙に書かれた植物を探す“ネイチャーゲーム”と、丸太をのこぎりで輪切りにする“丸太切り体験”。

ネイチャーゲームでは紙に書かれた8種類の植物を探していきます。似た植物が多い中、写真とヒントを頼りに植物を探します。「これスギっぽい」「トチノキの葉っぱはとても大きいって(紙に)書いてある」「あれ怪しいかも」気になったところに足を止めつつ、悩みつつ、グループで相談しながら探していました。どのチームも時間内に全て見つけることができました。

丸太切り体験は、スギとイノエンジュを用意しました(イノエンジュは深浦町からの提供)。途中までは切込みが入っていますが、半分以上を自分で切らなければなりません。初めてのこぎりを触るという児童も多く、みな一様に苦労していました。終わった後は「楽しかった」「もう一度やりたい」と晴れやかな顔で、楽しんでいる様子でした。

切った丸太は袋に入れてお持ち帰り。「いいにおいがする!」「ひんやりして気持ちいい」と顔を近づけて楽しんでいます。

子供たちが、この体験を通してより自然を身近に感じてくれたなら幸いです。

津軽森林管理署 主事



腰を落として思いっきり



「見つけた!」